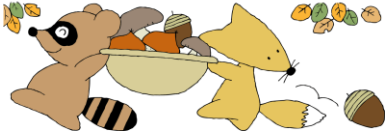


つ く し ん ぼ

しゅうかくの秋です



やっと朝晩涼しくなってきました！秋の運動会は予定通りにできたところがほとんどのようです。また1つ、子どもたちの心に大切な宝物が増えたことでしょう。

小学校では、遠足や修学旅行、陸上記録会、音楽会と、教科の学習とは一味ちがう様々な活動がめじろおしです。今日の「お話タイム」には、どんなお話を聞かせてもらえるのかな。楽しみです！！

おうちにはいる
こめつぶはふーは
ちやわんにもられ
こめつぶはふんわり
かわいくな
こめつぶはふくふく
おおきくな
こめつぶはぶくぶく
おかまでにえて
こめつぶはふつふつ
もんくもいわず
こめつぶはぶつぶつ
こめつぶはぶつぶつ
いじめつぶ
ねじめ正一

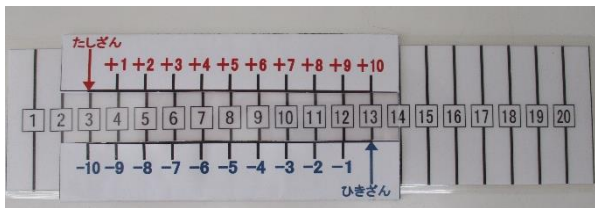


夏の研修会に参加して・・・

8月に「通級指導教室での読み・書きへの支援について～今、目の前にいる子の「わかった！」を目指して～」という演題の下、安来市立荒島小学校 井上賞子先生の話聞く機会がありました。

講演の中で、苦手な部分を「支える」発想から「手だて」としての教材の必要性を教えてくださいました。「AができればBに進もう」の課題について、Aに困難がある子はいつまでたってもBに進めない。この結果、「いつまでたってもできない自分」を感じてしまい、意欲の減退や自己評価の低下が見られている。しかし、支援のある教具を使うことで、例えばAが困難でも、Aを補ってBに進むことができれば、学習機会が増える中でAも向上し、この結果「できる自分」を感じることができ、意欲の継続や学習機会の保障ができるとのことでした。なるほどなあと思いました。また、「いつまでも使い続ける物ではなく、使う必要がなくなれば勝手に使わなくなる」との話に、道具の必要性は子ども達が判断するので、どうやったら「できた！」という気持ちを持てたり力を伸ばしたりできるのかを提案し、子どもたちが自分にピッタリ合う教材・教具を探っていきたいなと思いました。

支援のある教具の一例
○たしひきものさし



(上) 加減の暗算が定着していない子の、課題解決を支えます。

(中央) 時刻の読みの苦手さを補います。

(右) シールを貼ったり色を塗ったり多感覚を利用し、線の構成を捉えにくい子の文字の習得を支えます。

○時計



○漢字しっかりシート

